

平成23年度第3回松山地域協議会会議録

日 時 平成23年11月11日(金) 午後2時～午後4時

場 所 松嶺コミュニティセンター 講堂

出席委員 12名

1号委員 齋藤 勝 志田 節子 佐藤 旭 阿部 茂 丸山 慶子
池田 重悦 小田 和夫 石川 信一 遠藤 俊三 村山 安子

2号委員 小野 與一

3号委員 日野 健吾

欠席委員 3名

今田 充代 阿部 春一 佐藤 修

酒田市出席者

酒田市学区改編推進室長 岩堀 慎司 学区改編推進主査 松田 俊一

松山総合支所長 太田 豊 地域振興課長 秋葉 弘毅 建設産業課長 難波 富也

市民福祉課長 久松 正一 地域振興課補佐 後藤 晃 地域振興課主査 五十嵐昭一

地域振興課調整主任 石川 春市 地域振興課調整主任 丸藤 真也

傍聴者 1名

議事日程

1 開 会

2 あいさつ

3 議事録署名委員の選出

4 議 事

(1) 松山中学校と飛鳥中学校の統合について

(2) 平成24年度地域づくり予算について

(3) デマンドタクシーについて

(4) その他

5 そ の 他

6 閉 会

【議 事】

1 開 会・・・・地域振興課長

2 あいさつ

【地域協議会会長】

夕べの月は実に美しいものでしたが、本日はご覧のとおり雨となってしまいました。秋の天候は本当に変わりやすものです。さて、昨年から取り組んできました松山地域ビジョンについては、今年の7月の第2回松山地域協議会で完成をみましたので、8月5

日に市長へ報告してきました。今後はビジョンの実現に向けて皆さんとがんばっていき
たいと思います。どうぞよろしく御願います。

3 議事録署名委員の選出

地域振興課長 申し合わせ事項により、今回は阿部茂委員にお願いしたいと思いますが
いかがでしょうか。

委 員 異議なし

4 協 議

(1) 松山中学校と飛鳥中学校の統合について

学区改編推進室の岩堀室長が資料に基づき説明を行う。

本日は松山中学校と飛鳥中学校の統合について、学区改編審議会という第三者機関の
答申を受けて、教育委員会としての方針を定めたこと、及び学校の位置についても協議
のうえ方向性を定めたことを報告させていただきます。

昨年の6月から各コミュニティや小中学校の保護者会等に、松山中学校と飛鳥中学校
の統合について説明してきました。その際には、今後の生徒数や学級数の推移について、
及び学級数により教職員の数や配置が決まってくること、中学校の場合は特に教科担任
制という形で学習指導が行われている関係で、専門の教員が必要なこと、特に主要5科
目については平成24年度から完全実施になり授業数が大幅に増えてくるため、できれ
ば専門教科の先生が複数いた方が好ましいこと、部活動などの選択も小規模になればな
るほど限られてくるし、維持することも難しくなってくること等を申し上げてきました。

説明会においては、将来的に中学校の統合はやむを得ないということが大方の意見で
ありました。また、統合までのスケジュールや準備を示していただきたいという意見も
ございました。教育委員会では今年2月に学区改編審議会へ松山中学校と飛鳥中学校
の統合について諮問いたしました。3回の審議会を経て、7月に両校の統合は妥当であ
るとの答申をいただきました。ただし、学校の位置や統合の時期については教育委員会
で決めていただきたいとのことでした。その後、教育委員が実際、両校を視察し、協議
を重ね、この件に関して方向性をだしております。

本日配布した資料は学校の位置を決める際に使用した資料です。最初に生徒数と学級
数の平成34年度までの推移について、それぞれ松山中学校と飛鳥中学校それに統合し
た場合について、両地域の生徒数の割合を含め示しております。平成23年度の両地域
の割合は松山地域が46%、平田地域が54%ですが平成34年度になると松山地域が33%、
平田地域が67%となります。

次は建物、敷地について比較をしております。敷地については建物敷地、運動場敷地
ともに飛鳥中学校の方が広がっております。校舎については飛鳥中学校の方が広くな
っておりますが、体育館については松山中学校の方が新しく広いものになっております。

次は居住分布状況について説明いたします。資料は両地区に住む0歳から14歳まで

の1,374人（約6割が平田地区に居住、約4割が松山地区に居住）を対象に、それぞれ松山中学校、飛鳥中学校を統合中学校とした場合のデータです。通学距離に関しては、松山中学校を統合中学校とした場合、通学距離が3km以上となる生徒割合が75%（3km以内は25%）となり、飛鳥中学校を統合中学校とした場合は55%（3km以内は45%）となります。

こうした比較検討の結果、教育委員会としては、平地にあって人が集まり易いという点、敷地が一定程度確保されている点、学校に近い子どもの数が多いという点から、飛鳥中学校の活用が妥当であると判断いたしました。ただし、活用と言ってもそのまま使用するのではなく、グラウンドを含め現在の校舎を耐震補強、また総合的に改修し、新中学校として使ってもらよう最大限の努力をする考えです。

次に統合の時期についてですが、教育委員会としては平成25年度に松山中学校において、1クラスの学年が発生するため、平成26年度か27年度には統合を進めたいと考えております。

今後、松山・平田両地域の方々、保護者等への説明会を今回と同じように開催していく予定です。その後、両地域の主な組織の代表者からなる統合準備委員会を立ち上げ、統合に向けてのソフト面（校名案、校章、校歌、制服、PTA・後援会・同窓会の運営等）の諸課題を検討していただくこととなります。ハード・ソフト面の整備と両校のすり合わせに最低2年は必要だと認識しております。

今後は教育委員会の責任で統合を進めていきますが、皆さんの理解とご協力をお願いいたします。

小野委員 統合中学校の位置について一定の結論を出されたようですが、はたして効率性だけで位置を決めていいものだろうか。今回の東日本大震災においても建物は高台への移転を推奨しているとおり、もっと安全面と環境面を考慮してもよいのではないか。過去においては庄内でも明治の時代に大震災が発生している。また、檜橋から八幡にかけては東縁活断層が走っており、はたして活断層の上に建物を建てて大丈夫なのか。学校という機能だけでなく、防災面も検討する必要があるのではないか。

岩堀室長 松山中学校と飛鳥中学校では建設時に地盤調査をしており、必要な杭の長さ、本数等を決定し地盤強化を図っております。資料によれば松山中付近は地表下5m位は粘性土で、庄内平野東縁を南北に走っている土層と同じ地質となっており、工学的には中位の硬さの土となっております。一方飛鳥中付近は地表下数メートル付近まで軟弱な砂質土であり、双方近い地域ではありますが、異なった地盤であることは把握しております。教育委員会にはこういったことを報告しながら最終的に学校の位置を決定していただきました。

小野委員 個人的には松山中学校の丘陵を利用して環境の整ったところで勉強してもらいたいという気持ちである。震災の状況をみても高台の方が安全なのか

など思う。ただ、今回の結論については専門家も検討しているようなので、私の発言は意見として申し上げておきます。

遠藤委員 飛鳥中の野球部は平成 24 年度には部員不足で単独で試合に出れないと聞いている。また、来年度は松山中の野球部と一緒に練習する予定であるとも聞いている。旧鳥海中と旧八幡中は合併前に合同チームとして試合に出ていた。酒田市で統合を公表すれば合同チームで試合に出ることができると聞いている。市で統合を公表するのはいつ頃になるのか。

岩堀室長 まずは統合中学校の位置、整備改修、統合年次を確定することです。来年度中には公表できると思いますが、野球部の希望があれば関係部署に伝えておきます。

池田委員 中学校の生徒数の適正規模はどの程度が望ましいのか。また、更に生徒数の減少が続けば統合が進むのか。

岩堀室長 酒田市では小学校で学年 2 クラス以上、中学校で学年 4 クラス以上、全体で 12～18 学級が適切であると考えています。更に生徒数の減少が続けば、再度統合が想定されますが、国の基準は 1 クラスを少人数化し、一定の学級数を確保することを目指しております。今後、国の基準も変わっていくこともあり、状況を見ながら判断していくこととなります。

日野委員 子どものいる家庭には統合の情報も伝わると思うが、子どものいない家にはなかなか統合の情報が伝わってこない。自治会や職場などで説明会を重ねれば、一挙に理解が深まり、更に統合がスムーズに進むと思う。

(2) 平成 24 年度地域づくり予算について

地域振興課長が資料に基づき説明を行う。

資料は確定したものではなく、要求の基本的な考え方を示しているものです。総額では今年度より増額の要求となっております。増額の主な要因は青少年国内外交流事業について、来年度はアメリカへ派遣の年であること、新たに地域活性化事業を起し、地域づくり事業を強化しているためです。その他の事業については事業の組み換え等により若干の増減があります。

丸山委員 新規の地域活性化事業についてですが、組み換えもあったようですが、かなり事業規模が大きくなっております。みんなで考えてこの地域をもっと良くしていきたいと思えます。各団体等の協力を得て是非成功させていただきたいと思えます。

阿部委員 地域づくり予算は当初は 1400 万位の予算であったが、年々減額が続き、今では半分位になっている。今回の要求で大幅に増額されたことはありがたいことと受け止めている。地域活性化事業については、これからいろいろな

要望が出てくると思われる。以前は地域づくりに関しては新規の事業はダメで、非常に融通の利かない予算だという雰囲気があった。これからは地域住民からアイデアを吸い上げて、新しい事業を展開していくのであれば、非常に良い予算であると思う。

にぎわい広場の朝市を開催する建物が、いつの間にか半分位高校生の自転車置き場になっている。朝市を開催したり、特産品を販売する場としてPRするのであればもっと明るくきれいにして、使いやすいものにする必要がある。そのあたりにも予算を有効利用して頂きたい。

丸山委員 私もその場所へはたまに買い物にいきますが、お客さんは近辺の人たちばかりで、遠くから買い物に来ている人はほとんど見たことがありません。もっと地域全体から人が集まってくるようなPRの方法もあると思います。また、商品も野菜、漬物、花等に限られており、もっと菓子類等様々なものがあれば人が集まると思います。

村山委員 花いっぱい事業ですが、前年並みの予算確保ということで安心しました。旧松山町時代から花には力を入れており、花の咲いている道路から町中に入ってくるのは気持ちの良いものである。ただ、植栽を業者委託するだけでは、たとえ町並がきれいになったとしても、なかなかボランティアが育たない。地域づくりのきっかけになる可能性もあるし、又、来年度は宮城松山交流 30 周年記念ということですので、ぜひ全市民に呼びかけをして頂きたい。

小野委員 花いっぱい事業の花苗は、当初、農協の家計簿グループ人たちが、酒田の松林の中で育てていたものを参考に始めたものである。まだ続けていることは非常にありがたいことですし、地域の特色でもあることから、今後も続けていってほしい。青少年国内外交流事業は子どもたちが国際感覚を身につけたり、見聞を広めることに役だっている。観光について、ここには資源はあるのに商売べたで、もったいない感じがしている。今後は先ほど話があったとおり経営感覚をもってあたって頂きたい。

小田委員 青少年国内外交流事業はたいへん良い事業だと思いますが、松山地域の中だけの事業として考えてよいものか。また、中学校が統合となればどうなるのかを考えておく必要があると思う。地域活性化について、商工会の立場から申し上げますが、現在、地域からも少し商工会ががんばって、力を貸して欲しいという意見はたくさんあります。私も合併してから、市街地ばかりでなく旧 3 町地区にも力を入れて欲しいとは言っているのですが、具体的にこの地域に関する事業は出てこない。地元経済にしても、今まで地域内で購入してもらっていたものが、市の入札制度により、販売関係はほとんど旧市内の業者が落札している状況である。

今回の地域活性化事業について、この地域には歴史と文化という資源があるのですから、それを活用して、交流の輪を広げ、賑わいを創出していただ

きたい。具体的な活動については、ぜひ商工会も関わっていききたい。

朝市で取り扱っている地元野菜等はたいへん評判が良い。商工会でもこれらの産直団体をもっと活性化したいと考えている。平田、八幡の団体は行政で建物を建て、運営を任されている。この地域の特産品の開発にしても、農家だけでなく、商業も工業も行政も全員で一緒になって取り組んでいく必要がある。商工会としても現在鋭意メンバーを募っているところです。ぜひ皆さんからもご協力をお願いします。

秋葉課長

青少年国内外交流事業については旧酒田市、旧3町時代からそれぞれ独自で取り組んできた事業を引き継いでいる。現在、教育委員会が中心となり、事業のあり方を検討していますが、国内交流については、それぞれ合併前の事情を抱えており、一本化は困難な状況にあり、当分現在のスタイルで続けていく予定です。国外交流については、松山中学校は現在飛鳥中学校との統合を控えているため、それまでは現在のスタイルで続けていく予定です。

地元から物品を購入して頂きたいとのことですが、契約検査課ではなんら地元業者を差別しているものではなく、競争が激しいというのが実情です。支所としては、なるべく地元から購入するようにしております。

歴史と文化の活用、異業種交流による地場産業の振興については、ぜひ一緒に事業を進めていききたいと思えます。

佐藤委員

地域活性化事業の予算規模が大きくなっておりますが、内容をみると実に広範囲になっております。単に予算を公平に分配しては、どういう形で活性化に繋がったかは見えてこないおそれがあります。事業に優先順位をつけて、めりはりのある予算執行をお願いしたい。

(3) デマンドタクシーについて

地域振興課長が資料に基づき説明を行う。

今年の春以来、みなさんにご説明してきましたデマンドタクシーですが、ようやく12月1日から運行開始することになりました。すでに、広報等での周知を図っておりますが、本日皆さんのお手元にある資料が最新のもので、今度の送達で全戸配布することにしております。いままで説明してきたこととほとんど内容は同じですが、見やすいものになっております。松山地域での申し込み状況は、現在245件ほどあります。一世帯について2~3名の申し込みがありますので、約600名位の申し込みです。登録は総合支所と各コミセンで行っておりますので、事前に登録された方が良いでしょう。

運行開始後は不都合やご意見が出ると思いますが、それらを改善しながら、更に使いやすいシステムにしていききたいと思えます。

志田委員

支払いは現金でしょうか、チケットでしょうか。

秋葉委員 現金が基本になりますが、福祉乗合バスの回数券も使えます。
日野委員 予約の電話はどこにつながるのですか。
秋葉課長 正確には聞いておりませんが、おそらく酒田地区のタクシー協議会がセンターを設置して専用の電話を使用するものと思います。

(4) その他

日野委員 酒田市民憲章は酒田市の明日をつくる合言葉であり、次回から地域協議会の開始時に皆さんで唱和することを提案します。
石川会長 みなさん異議がないようですので次回から市民憲章の唱和を実施します。

石川会長 ほかに皆さんから意見が無いようですので、これで第3回松山地域協議会を終了いたします。最後に副会長よりご挨拶申し上げます。
齋藤副会長 松山中学校と飛鳥中学校の統合の見通しについて話し合うことができ、大変有意義でした。今回は全員出席でお願いしたいと思います。それでは本日はたいへんご苦勞さまでした。